

SHOW HEY シネマールーム

★★★★

あと1センチの恋

2014年・ドイツ、イギリス映画
配給/ファントム・フィルム・103分

2014 (平成26) 年 12 月 30 日鑑賞

シネ・リーブル梅田

Data

監督：クリスチャン・ディッター
脚本：ジュリエット・トウィディ
原作：セシリア・アハーン著『愛は虹の向こうに』
出演：リリー・コリンズ/サム・クラフリン/クリスチャン・クック/タムシン・エガートン/スキ・ウオーターハウス/ジェイミー・ビーミッシュ/ジェイミー・ウィンストン

👁️👁️ みどころ

原作を書いたアイルランド人の女性作家セシリア・アハーンの9冊の小説は世界中でバカ売れらしい。「あと1センチの恋」とは言い得て妙なタイトルだが、そのギリギリの「攻防戦」を持続させるためのストーリー・メイキングはちょっと作りすぎの感が……。

1度のエッチで思いがけない妊娠、シングルマザーとして子育てしながら、他方で恋愛もしっかりと。今ドキの若者の「恋のレベル」を知るには面白い作品かもしれないが、65歳のオレにはちょっと……。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■久しぶりに満席！その人気の源泉は？■□■

イギリスの出版社ドーリング・キンダースリーの「TOP 20 BUILDINGS AROUND THE WORLD」にも選ばれた人気のビル、梅田スカイビルの3階と4階にある映画館シネ・リーブル梅田は、2009年からテアトル梅田グループになったため、テアトル梅田の株主優待券で入場できるようになった。そんな事情で、近時は「シネ・リーブル梅田」での鑑賞数が増えているが、シネコン系ではなく名画座系のこの映画館はやはり入場者は少ない。下手すると10名以下、多くても20～30名というのが普通だ。ところが、本作は公開初日には満席になっていたし、公開4日目の今日もほぼ80%の入りだからすごい。



(C) 2014 CONSTANTIN FILM PRODUCTION GMBH

大規模な宣伝もしていない本作が、なぜそんなに人気に？その人気の源泉は、2004年の処女作である『P. S. アイラブユー』の出版によって一躍世界的に有名になったアイルランド人作家・セシリア・アハーン『愛は虹の向こうに』という2作目の原作にあるらしい。ちなみに私は、ヒラリー・スワンクとジェラルド・バトラーが主演した『P. S. アイラブユー』(07年)を観ていないし、アハーンが書いた9冊の小説が世界中で1600万部以上売り上げているという実態も知らなかった。しかし、本離れ、読書離れが報じられる中、ひょっとして多くの日本の若者はそれを知っていたの・・・？

■□■ 2人の主人公を演ずるのは？ ■□■

映画は冒頭パーティのシーンから始まるが、それが一体ナニを意味するのかはイマイチ不明。進行につれて、これがロージー(リリー・コリンズ)の18歳の誕生日パーティであることがわかるが、ここで飲みつぶれてしまったロージーは、友達以上、恋人未満の幼なじみの男アレックス(サム・クラフリン)とキスを交わしたことも全く覚えていないらしい。

ロージーを演ずるリリー・コリンズは『しあわせの隠れ場所』(09年)、『シネマルーム24』(39頁参照)でサンドラ・ブロックの娘役で映画デビューした、1989年生まれイギリス人の若手美人女優。対するアレックスを演ずるサム・クラフリンは『ハンガーゲーム2』(13年)、『シネマルーム33』未掲載)等に出演している俳優だが、両者とも私はとり立てて印象に残っていない。



(C) 2014 CONSTANTIN FILM PRODUKTION GMBH



(C) 2014 CONSTANTIN FILM PRODUKTION GMBH



(C) 2014 CONSTANTIN FILM PRODUKTION GMBH

■□■ 18歳でのこの失態(?)は、今ドキありえないのでは ■□■

本作の舞台はイギリスで、2人が通っているハイスクールは田舎にあるらしい。そして、アレックスは医学部への進学を、ロージーはホテルの経営者になることを夢見ていた。2人ともそんな上昇志向があるのなら、わざわざ大西洋を隔てた遠いアメリカの大学に行かなくても、イギリスにだってケンブリッジ大学やオックスフォード大学があるはずだが、

なぜアレックスはボストン大学に・・・？そこらが日本人の私にはイマイチ不明だ。もっとも、そのためにアレックスがどれくらい猛勉強しているかは全く描かれない。そればかりか、クラスメートの女性ベサニー（スキ・ウォーターハウス）との初体験に夢中になるアレックスの姿を見ていると、少しバカバカしくなってくる。

他方、ロージーの方はアレックスより真面目そうだが、アレックスより先に合格通知を受け取りながら、クラスで人気の男の子グレッグ（クリスチャン・クック）との初エッチの際中に、「ある失敗」によって即妊娠。カトリックだから墮胎はだめ。そこで、ボストン大学への進学を断念し、子供を産んだうえで里親に出すしかないという選択をしたが、そりゃ安易そのもの。しかし、今ドキ18歳でこんな失態はありえないのでは・・・？そのうえ、実際に女の子が生まれると里親に出すことができなくなり、自分で育てることを決意。両親がたまたまそんなロージーを応援してくれたからいいようなものの、この場でのこの決断も、安易としか言いようがないのでは・・・？



(C) 2014 CONSTANTIN FILM PRODUKTION GMBH



(C) 2014 CONSTANTIN FILM PRODUKTION GMBH

■今ドキは、こんな波乱万丈がハヤリ？■

大学への進路を決める18歳の頃、あるいは大学生活における20歳の頃は、男も女もいろいろな恋愛をくり返す中でいろいろな人生を決めることになるが、本作にみるアレックスとロージーの18歳から30歳までの人生を観ると、そのあまりの波乱万丈さにビックリ！これは小説なればこそだろうが、こんな小説が全世界で大ヒットしているのは、それが今ドキのハヤリ？きっとそうなのだろうが、私の分析では、若者の恋愛は近時保守的になり閉塞状況が進んでいるため、小説の上だけでこんな波乱万丈ぶりを求めているのでは・・・？

それはともかく、誰が考えても、本作導入部の展開の中で決まってしまった、ホテルの清掃の仕事をしながらシングルマザーとしてつましやかな生活を営むロージーと、ボストン大学を卒業し、恋人サリー（タムシン・エガートン）と華やかな生活を営むアレックスは、もはや別世界の人間になってしまったはず。ところが、本作ではある日アレックスがロージーをボストンに呼び、それを聞いたロージーも嬉しそうにノコノコとボストンに飛んだところから、さまざまな波乱が生まれてくることに・・・。本作にみるサリーはエキセントリックすぎる女だが、それがわかっていながら、アレックスはなぜロージーをわ



(C) 2014 CONSTANTIN FILM PRODUKTION GMBH

ざわざボストンに呼んだの？喜んで出かけて行ったアレックスの家での夕食の席で、サリーの妊娠を告げられたのは最悪だが、それだって当然予想できたのでは？

こちらあたりのストーリー・メイキングがいかにも波乱万丈の恋愛小説のためのテクニックにみえるし、それに乗って喜ぶ読者を想像すると何となく私には拒絶感が……。やっぱり65歳の俺には、もうこんな恋愛映画や恋愛小説はムリなのかも……。

■□■今さらパパと言われても！それなのに……。？■□■

ロージーの初体験の男(?) グレグも、ひょっとしてロージーが初体験の女……。そんな風に見えてしまうほど、「いざ、セックス！」という時のグレグの姿は情けなかったうえ、ロージーの妊娠を聞くとすぐにロージーの前から逃げ去ってしまったから、グレグは最低のダメ男。それは誰の目にも明らかだが、ボストンでのアレックスとの再会の中で大きな心の傷を負った後、シングルマザーとして孤軍奮闘しているロージーの前に、ある日そのグレグが登場！ロージーがこれにビックリしたのは当然だが、本作のストーリー・メイキングは「僕がこの子のパパだ」と強引に言い寄るグレグの情熱にロージーがほだされて2人が結婚に向かうという、何とも意外なもの。他方、ロージーを幸せにするのなら、アレックスの方は不幸にしなければ面白くないとばかりに、本作のストーリーでは、サリーの浮気がバレ、妊娠を告げられた子供の父親も別の男だったことが判明したことによって、アレックスはサリーと別れることに……。

なるほど、波乱万丈の恋愛小説のストーリー・メイキングはこのようにしていくのかというテクニックはわかる。しかし一方では、今更パパと言われても！と怒るのが当然なのに、結婚まで進んでしまうロージーの女ゴコロが不可解。そして他方では、学校の成績はいいのだろうが、アレックスの女を見る目のなさにも、いい加減うんざり。

■□■ハッピーエンドは想定内だが、これもやりすぎでは？■□■

セシリア・アハーン原作は、次々と新しい事件を作り出すことによって波乱万丈のストーリーを進行させるのが特徴らしい。したがって、本作はその後も、母親と念願の海外旅行に赴いたロージーの父親の不慮の死というハプニングの中、その葬儀でアレックスとロージーとを再会させるストーリーの登場になる。ここではアレックスは一介の参列者の一人にすぎないはずだが、アレックスのロージーに対する態度はいかにも馴れ馴れしい。

したがって、ロージーの夫のグレッグがそれに注意した(?)のは当然だが、実はこの頃にはロージーとグレッグの愛情もかなり冷めていたらしい。

しかして、ボストンに戻ったアレックスは、「ロージー。君はもっと愛されるべきだ。どんな時もそばで君を支え君を包み込める男から。ケイティに父親が必要なのは分かる。この話題はこれきりにするから。グレッグは君にふさわしくない。君を手放したのは怖かったからなんだ。今なら君を幸せにできる。電話して。愛を込めて」と書いた手紙をロージー宛てに送るのだが、私に言わせればこれもあまりにバカげた行為だ。つまり、夫に内緒でこっそりこの手紙をロージーに手渡すのならまだしも、こんな手紙をロージー宛てに郵送してそれをグレッグが開封したらどうなるの・・・?アレックスにはそれぐらいの危険予知能力もない?結果的に、離婚を決意した後、グレッグの引き出しの中に隠されていたこの手紙をロージーが発見することによって、その後の更なる波乱万丈の展開の末に最終章のハッピーエンドに向かうのだが、私に言わせればそんなストーリー・メイキングは、これもやりすぎなら、あれもやりすぎだ。

1月4日(日)から始まった2015年の大河ドラマ『花燃ゆ』は吉田松陰の妹・文(ふみ)を中心とした青春群像劇だが、そこでは吉田松陰をはじめ一人一人の若者がホンモノの波乱万丈の人生を送るはず。それに比べると、本作に観るロージーとアレックスの「あと1センチの恋」の物語は、あまりにも人工的につくられすぎでは・・・?

2015(平成27)年1月7日記



(C) 2014 CONSTANTIN FILM PRODUKTION GMBH



(C) 2014 CONSTANTIN FILM PRODUKTION GMBH



(C) 2014 CONSTANTIN FILM PRODUKTION GMBH